

- ① 北条小学校は、改築により平成 21 年 8 月に新校舎へ移行したところです。この改築に当たっては、二酸化炭素の排出量を削減するなど環境に配慮するため、校舎設備の電化を取り入れました。例えば校舎の暖房設備については、従来の灯油ストーブから夜間電力を利用した蓄熱暖房設備やエアコンを導入したところです。

今回指摘のありました電気料金増加の主な原因としては、暖房設備における灯油から電化への変更や施設全体の電化等が考えられます。施設への電化導入は、二酸化炭素の排出量を削減する一方で、消費する電力量が導入前と比較すると増加することから、昼間の最大需要電力で算定し契約する「基本料金」と使用量によって算定する「使用量料金」が増加することとなります。

このことから、基本料金を抑える努力をするとともに、通常の使用量料金が割引となる「夜間電力」を利用したり、また、センサーライトを採用したりするなどして節電に努めているところです。さらには、使用量料金に影響する夜間における蓄熱の稼働期間や暖房運転を適正に行うなどより一層の節電への取り組みを行っていきたいと考えます。

大栄健康増進センターの増額の原因は、平成 22 年 1 月の健診時において、(あまりにも寒かったため) 全館エアコンをつけたうえ、手動で床暖房を使用しました。このため、使用電力量が一気に上がり、これが最大需要電力となり、基本料金が設定されました。過去 11 カ月の最大電力で契約電力が決定されるため、来年(平成 23 年)の 1 月までは、この電力より多く使用しない限り、この量での契約となりました。

職員には、再発防止を口頭及び課長会で周知するとともに、配電盤に「関係者以外は床暖房の操作を行わないでください」と張り紙を貼付し、引き続き節電に取り組んでいるところであります。

- ② トイレの設置は、運転免許試験場跡地に商工会が物販施設を設置することとなり、商工会から公衆トイレ設置の要望がありました。これを受け町では、県の補助金(補助率 1/2)を受けて平成 20 年度に予算化し、デザイン等は物販施設との調和について商工会と協議したところでありますが、物販施設の建築が遅れたため、平成 21 年度に予算を繰越しましたが年度内での物販施設の着手が微妙となったため、トイレのみ設置しました。また、駐車場の整備につきましては、アスファルト路面(県から返還された状態)を駐車区画線として整理し、表示については、現在「トイレ」「駐車場」がわかる表示をしており、「町営」や「無料」である表示は特に考えていません。
- ③ 北条テニスコートの今後の利活用については利用者が少ないことから、6 月議会におきまして、より有効活用が図れるグラウンドゴルフやゲートボールなどにも使用することが出来る多目的広場へ用途変更いたしました。10 月を目処にテニスコート用の支柱を撤去し、4 辺がフェンスで覆われている一部のフェンスを撤去し解放するような形での多目的広場として活用を図っていくこととしております。